■「D-ai」の主な機能：多様な AI アシスタント機能

- 高精度な記事校閲・音声文字起こし：煩雑な作業を効率化し、記者がよりクリエイティブな取材活動に専念できる環境をつくります。
- 定型記事の下書き作成：データの構造化と AI を組み合わせ、迅速な速報体制を支援します。
- 情報収集・要約通知：Web サイトやメールから届く外部情報を自動収集し、社内コミュニケーションツールと連携することで、AI が要約した情報を即座に現場の記者やデスクへ届けます。導入企業のニーズに合わせたカスタマイズが可能です。

D-ai の利用画面。左メニュー欄に ChatGPT などの対話型 AI や各種アシスタントが並ぶ

■北海道新聞社の AI 利用指針

北海道新聞社は 2025 年 1 月に社内規定として「生成 AI の利用に関する指針」を定め、日常業務における適正利用を追求しています。編集局では「AI はあくまで補助ツールであり、全ての判断と責任は編集者が担う」ことを明記した独自の利用指針を設け、AI による執筆や外部の AI への機密情報の入力を禁止しています。「D-ai」は、こうした指針を踏まえて開発・運用。AI 開発チーム「D-ai Studio」は編集局のリテラシー教育の推進役としても活動しています。

■宮崎日日新聞社の AI 利用指針

宮崎日日新聞社は報道機関としての高い倫理基準を維持するため、厳格な運用を義務づける「生成 AI 利用ガイドライン」を有しており、「D-ai」導入の環境が整っていました。導入にあたっては、2度の研修・説明会を受講することをアカウント付与の条件としたほか、「音声文字起こし」「校閲」の2アシスタントに利用を限定。生成 AI に対する理解やリテラシー醸成の進展に応じ、利用可能な機能を増やしていくことになっています。

【本件に関するお問い合わせ先】
北海道新聞社　編集局 AI 開発チーム「D-ai Studio」 担当：大矢・笠井
メール：d-ai@hokkaido-np.co.jp